

<b>団体名</b>	安芸高田市	<b>所属</b>	政策企画課	<b>他団体等との連携</b>	市内バス・タクシー事業者 公益財団法人安芸高田市地域振興事業団
<b>連絡先</b>	企画調整係 (0826)42-5612				

<b>取組事例名</b>	安芸高田市新公共交通システムの構築	<b>取組期間</b>	平成22年度～
--------------	-------------------	-------------	---------

### 取組の概要 ～ 新たな公共交通体系の整備

路線バス（市境をこえる広域路線と市内のみを走る路線の2種類）と、予約乗合型のお太助ワゴン、そして市町村運営有償運送の3つの公共交通を組み合わせた、新公共交通システムを構築した。

- 1 市境をこえる広域路線バスは、これまで通り1日を通して運行する。
- 2 市内のみを走る路線バスは、朝夕の通勤通学の時間帯のみの運行とする。
- 3 昼間の時間帯は、予約乗合型のワゴン車を運行する。
- 4 交通空白地と呼ばれる公共交通のない地域は、市町村運営有償運送を取り入れる。

### 取組の背景 ～ 合理化による利便性の低下

安芸高田市では、平成17年度に「生活交通確保対策推進計画」を策定し、乗合バスの再編に取り組んできた。

交通手段が公共交通からマイカーへと移行していること、少子高齢化や過疎化が進む中、バス利用者は減少し、ほとんどの路線が赤字となっていることから、公共交通を運行する法人に対し、市が赤字補てんをしてきた。

利用の少ない区間の廃止や利用の少ない時間帯の便数の削減など合理化を図ってきたが、結局利用者には利便性の低下につながり、利用者の更なる減少という悪循環に陥った。

### 取組のねらい ～ 利便性の向上

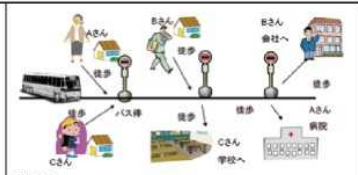


これまでは、生活圏とバス運行の方向が一致しておらず目的地に行けなかったり、バス停まで距離があり徒歩で行けない高齢者やバスの乗降に不安があるなど身体的な課題でバス利用ができない方もいた。通勤通学の朝夕の時間帯は、大きなバスが必要で、乗客の少ない昼間は小型車両の導入を希望する声が多かった。これらの課題を克服するため、新公共交通システムを構築することとなった。

### 取組の具体的内容 ～ 3つの交通体系を組み合わせた公共交通

「路線バス」、「お太助ワゴン」、「市町村運営有償運送」の3つの交通体系を組み合わせた「安芸高田市新公共交通システム」を、平成22年度から市内全域で運行している。

- 1 朝夕は、通勤通学者等、多くの乗客を運ぶため、大型バスで運行
  - 2 乗客の少ない昼間は、予約制の乗合型の「お太助ワゴン」を運行
  - 3 交通空白地と呼ばれる公共交通が運行されていない地域は、市町村運営有償運送の制度を取り入れて運行
- ※ 路線バス、お太助ワゴンは、バス会社、タクシー会社に路線ごとに運行委託
- ※ 市町村運営有償運送は、地元の地域振興組織に運行委託
- ※ お太助ワゴンの予約受け付けは、受付センター（公益財団法人安芸高田市地域振興事業団に業務委託）を設置し、オペレーターにより配車、運行経路の調整等を行い、運行事業者に指示している。

#### 新しい公共交通のイメージ ※市境をこえる広域路線バスは1日を通して走ります。

<b>朝</b>	<p><b>市内のみを走る路線バス</b> バス停でバスの到着を待ちます。目的地の近くのバス停で降ります。</p> <p>■運行日 月曜～土曜 (日・祝日・年末年始は運休) ■時間 午前7:00ごろ～午前8:00ごろ ■運行 各地域と吉田地域を結ぶ</p>	 <p><b>特徴</b> ○決まった時間に走る。 ○大勢の人数が乗ることができる。</p>
<b>昼</b>	<p><b>お太助ワゴン</b> 利用するときは、電話で受付センターに申し込みます。</p> <p>■運行日 月曜～金曜 (土・日・祝日・年末年始は運休) ■時間 午前8:00～午後4:00 ■対象者 利用登録をした方 ■運行 出発時間から最大1時間で運行</p>	 <p><b>特徴</b> ○予約に応じて走るのので、日ごと、便ごとに走るコースが違う。 ○それぞれの方の家の近くから、目的地の近くまで移動できる</p>
<b>夕</b>	<p><b>市内のみを走る路線バス</b></p> <p>■運行日 月曜～土曜 (日・祝日・年末年始は運休) ■時間 午後4:00ごろ～午後7:00ごろ ■運行 各地域と吉田地域を結ぶ</p>	

## 取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 運行経費の削減

新公共交通システムへ移行し、利用者の増、利便性の向上、利用者の満足度の向上にはつながっているが、運行経費を抑える手法が必要である。

## 創意工夫した点 ～ 時間帯、地域の実情に応じた運行

市内運行の路線バスについては、昼間の運行を廃止し、朝夕の通勤通学の時間帯のみ、大型バスの定時定路線運行を実施している。また、昼間はバス利用者が少ないため、小型の予約制の乗合ワゴン車により「ドア・ツー・ドア」の運行を実現した。

これら、時間帯、地域の実情に応じた運行により、公共交通に係る費用の削減に努めている。



## 取組の成果（効果） ～ 高齢者等の外出機会の増加

市町村運営有償運送により、市内2地域の交通空白地を解消することができた。

利用者は増加し、「利便性が高まった」、「外出機会が増えた」という高齢者の声が多く聞かれる。

また、バス事業者、市内タクシー事業者が、予約制の乗り物の運行、大型車両の運行を実施していくことにより、安芸高田市内の雇用の拡大につながっている。

高齢者の外出機会が増加したことにより、市内観光施設（温泉施設）などの利用拡大や、通院のしやすさから重症化や閉じこもりの防止など、健康の保持増進にもつながっている。さらに、高齢者や障害者の生涯学習教室などの社会参画を通じた健康と生きがい創り、交通事故防止への効果にもつながっていると考えられる。



## 今後の展開 ～ 福祉制度との連携等

利用者アンケートによれば、公共交通に対する満足度は高まっているが、運行経費の削減が、大きな課題の一つと考えている。利用者の更なる増加と、運行経費の削減について検討していきたい。

利用者からは、土日・祝日の運行の要望があるが、土日・祝日の利用目的には「イベント等への参加」が多く運行車両、運行経路の調整が難しいこと、土日・祝日までお太助ワゴンを運行すると、タクシー利用者が減り民業を圧迫することが懸念され、土日・祝日の運行に至っていない。土日・祝日の運行についても課題の一つとして検討する。

また、現在、利用の大多数を占める高齢者が、今後、更に高齢となり「お太助ワゴン」等の公共交通が利用できなくなった場合、あるいは、認知症・障がいのある方の利用については、福祉制度との連携が必要になると考える。

## 他団体へのアドバイス ～ 運行経費の削減と更なる利便性の向上へ

交通弱者の移動手段の確保は、どの自治体においても大きな課題となっている。対策にあたっては、各自自治体で様々な手法により事業展開されているが、どの自治体も財源の確保に苦慮しているものと考えられる。本市においても、利用者の満足度は高まっているものの、運行経費の削減には至っていない。行政と運行事業者、利用者が課題を共有し、今後も本事業が継続していけるよう、協議・検討を続けて行くことが大切と考える。



お太助ワゴンキャラクター あきたか太助

